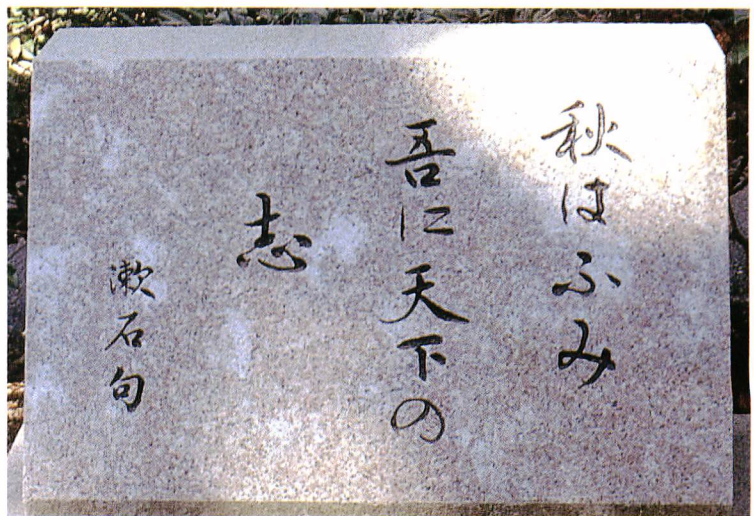




*Kumamoto University Library Bulletin, Vol.25, No.4, Oct. 2000 & Vol.26, No.1, Jan. 2001*

- 情報化時代の図書館を描く
- 永青文庫による細川(家)藩の大名屋敷
- 総合科目「情報メディアとネットワークの活用」開講される



学内の漱石像脇の句碑  
旧制五高時代の明治32年(1899年)、図書館で読書する学生の気概を詠んだ句とされている。

## 情報化時代の図書館を描く

両角光男  
本間里見

### 1. 設計演習課題の背景

(両角光男)

インターネット等の情報通信技術の急速な発展は、「知」の創造や伝達の方法を大きく変化させつつある。大学図書館は、書物が登場して以来、大学における「知」のシンボルとして位置付けられ、その蔵書量の豊富さを競ってきた。さて家庭や教室のコンピュータから世界を相手に情報を受発信できる今日、大学図書館は書籍や歴史資料の収蔵庫としての役割に留まり、「知」の創造や伝達の場合はサイバーな世界の中に溶解してしまうと考えるべきなのだろうか。

昨年夏、台湾の交通大学から、「情報化時代の建築」という共通テーマで設計競技に参加するよう誘いを受けたのをきっかけに、研究室の若手教官やOBと学生達にチームを組んでネットワークを利用した遠隔協調設計に挑戦してもらった。ここではその作品の一つを紹介したい。現時点では未だネットワークを介した設計コミュニケーションに制約があり、造形としての詰めが足りなかったとの印象は免れない。しかし熊本大学という身近な環境の中で彼らが思い描いた構想を通して、情報化時代における大学図書館像について考える一助としていただければ幸いである。

### 2. メディアを包み込む情報の帯◆INFOBELT◆

(本間里見)

インターネット時代に入り、図書館がサービスしなければならないメディアは、アナログとデジタルが混合した多様な形態が考えられる。さらに、大学という閉じたシステムから、地域社会と積極的に連携するオープンなシステムに進化するよう求められている。メディアを集め利用者に提供するものが図書館であるが、原点に戻って人と人、或いは人とメディアの自由な出会いを演出し、そこから新しいコミュニケーションを生み出す装置として設計した。

すなわち、①歴史資料からデジタル化した資料まで複数の情報メディアを融合させて、検索・閲覧が可能な情報提供機能、②歴史的価値の創造と伝承に必要な歴史資料の保存とメディアの変換機能、③地域住民と学生或いは大学関係者が共同の作業を通して、新たなビジネスを起こすための交流機能、④生涯学習センターとの交流機能、⑤マルチメディアを中心とした体感型プレゼンテーションホールの5つの機能をもつ複合施設である。

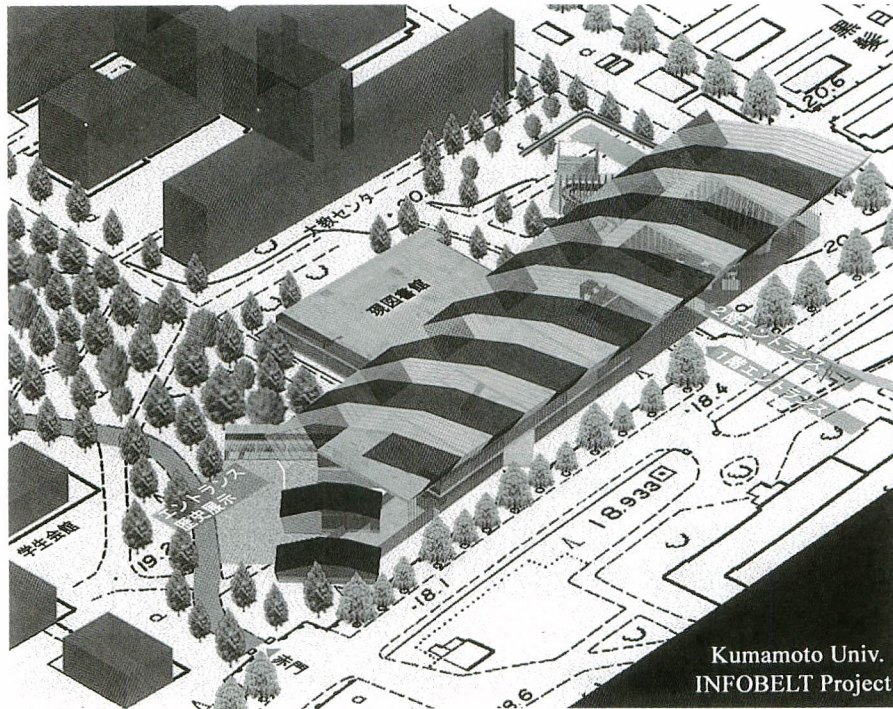
現図書館の南側に増築し、本館と連続した空間利用を考えた(図版①)。地上3階建て、100万冊の図書を保有すると想定した。地階には、70万冊を収納する集密書架及び貴重書・歴史資料、1階はレファレンスや一般図書・雑誌、2階は24万冊の専門書、3階はマルチメディア利用施設を配置した。各階にはそれぞれ、多様なスタイルで情報に接する閲覧空間を用意し、吹き抜けや階段・通路などで結んで連続感のある空間構成に心がけた。好きな時に、好きなスタイルで、好きなメディアを扱う空間、つまり「～しながら、～できる」といった、利用者の要望に柔軟に応える空間を提供する。

3階には、マルチメディアを扱うための大空間が広がっており、その中に個人作業用ボックス型のユニットが点在している(図版②)。これは、映像や音楽を中心に五感に訴えるコンテンツの創作と研究を行なう、マルチメディア対応の密閉型キャレルである(図版③)。デジタルコンテンツやマルチメディアを用いたユニークな研究を期待した。東寄りには、講義、講演会、会議などに使うマルチメディアホールを設置した。座席は全て可動式とし、様々なイベントに対応するよう計画した。360度パノラマ映像や立体映像を体感するマルチメディア・シアターとしても利用できる。また、可動間仕切りの設置で、展示場としての利用も可能である。

西側一階には、本学が保有する貴重書や歴史資料の修復や保存作業とそれらを利用した研究の場、それらをデジタルメディアに変換する作業を行う場、また一連の技術を教育する場として、歴史メディア研究センターも併せて計画した。併設の生涯学習センターは、大学の知的技術的ストックを活かした魅力的な講座を開講する。また、ビジネス・コ

ラボレーション・センターは、学外の社会人と学生が集まってビジネスのアイデアを研究し、起業家を育てるようなパイロット的な機関となることを考えた(図版④)。

(もろずみ みつお 工学部教授)  
(ほんま りけん 工学部助手)



Kumamoto Univ.  
INFOBELT Project

図版①(上)

南西の方向から見た鳥瞰図

図版②(右)

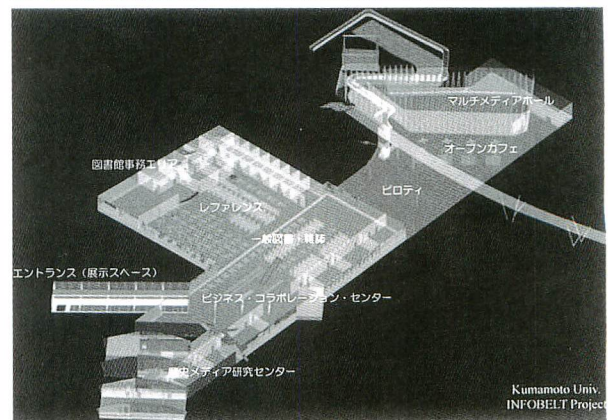
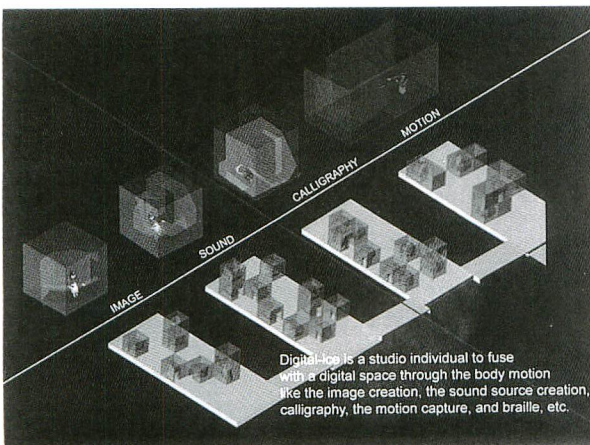
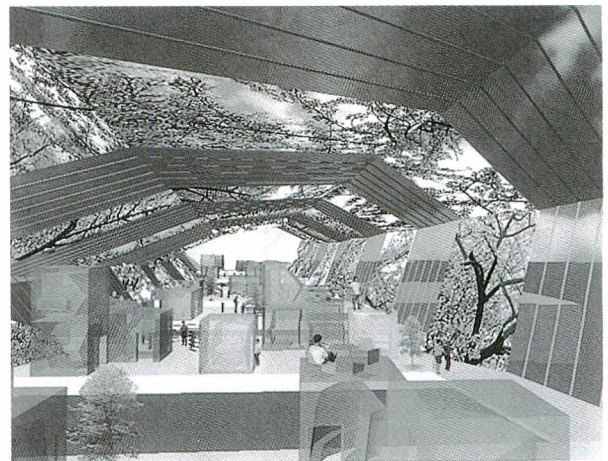
3階透視図。壁面には環境映像が映し出されている。

図版③(下左)

マルチメディア対応の密閉型キャレル

図版④(下右)

1階の施設配置計画



Kumamoto Univ.  
INFOBELT Project

第17回熊本大学附属図書館特殊資料展・講演会より

## 永青文庫による細川家(藩)の大名屋敷

北野 隆

江戸時代の各藩の大名屋敷の史料は、全国の図書館や大学図書館に保存されている。これら各地に残されている大名屋敷の史料の中で、江戸時代中期以前(1700年)の史料が継続的に見られるのは、細川家の大名屋敷と山口県立図書館の毛利家文書ぐらいだろう。そこで、今回は特に江戸時代初期、徳川将軍では家康、秀忠、家光時代の細川家の江戸屋敷について展示した。細川家が江戸に屋敷地を拝領するのは、慶長8年(1603)頃であった。この地は江戸城の南の「龍口上屋敷」であった。「龍口上屋敷」については寛永10年(1633)の絵図が残されている。絵図は台紙の上に1間毎に縦横に線を引いてグリッドをつくり、その上に建物の平面を描いた赤、青、黄土などの色紙を貼っている。この絵図によると、「龍口上屋敷」の主要殿舎は式台―広間―書院―御座ノ間から成っていた。

寛永年間三代将軍・家光が盛んに「御成」を行った時期である。細川家でも三代将軍・家光の「御成」を「龍口上屋敷」で行うことを考えるが、敷地

の狭さから「御成屋敷」が作られなかった。そこで、敷地の広い芝下屋敷に「御成屋敷」を計画した。この「御成屋敷」の計画には、幕府の大工大棟梁・甲良豊後が当たった。主要な御殿は、数寄屋―鎖ノ間―御成御殿―大広間などからなっている。それは当時の御成の式次第が、茶の湯―道具拝観―式三献―能三番―饗応―能であり、この儀式に建物も対応していたものと思われる。11月3日の講演会では、この御成の式次第が天皇の大嘗祭の儀式に似ていることを説明した。資料展示には、この他、江戸時代中期・後期の龍口上屋敷、広大な庭園を備えた寛文年間の戸越屋敷など細川家の江戸屋敷を紹介し、国許屋敷では遺構が存在する花畑屋敷、水前寺成趣園などが展示された。

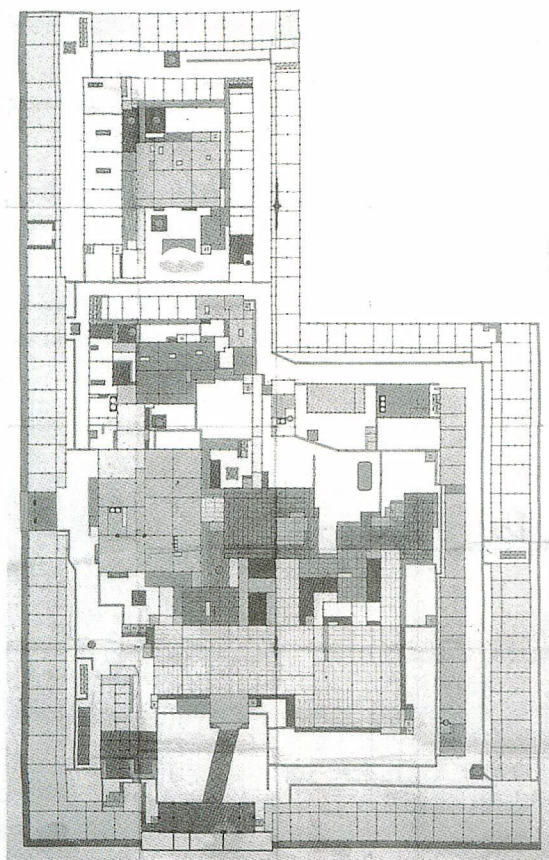
熊本大学図書館に保管される「永青文庫」は、近世史をはじめ、建築史、茶道史、庭園史などいろいろな分野に貢献する貴重な学術史料である。

(きたの たかし 工学部教授)

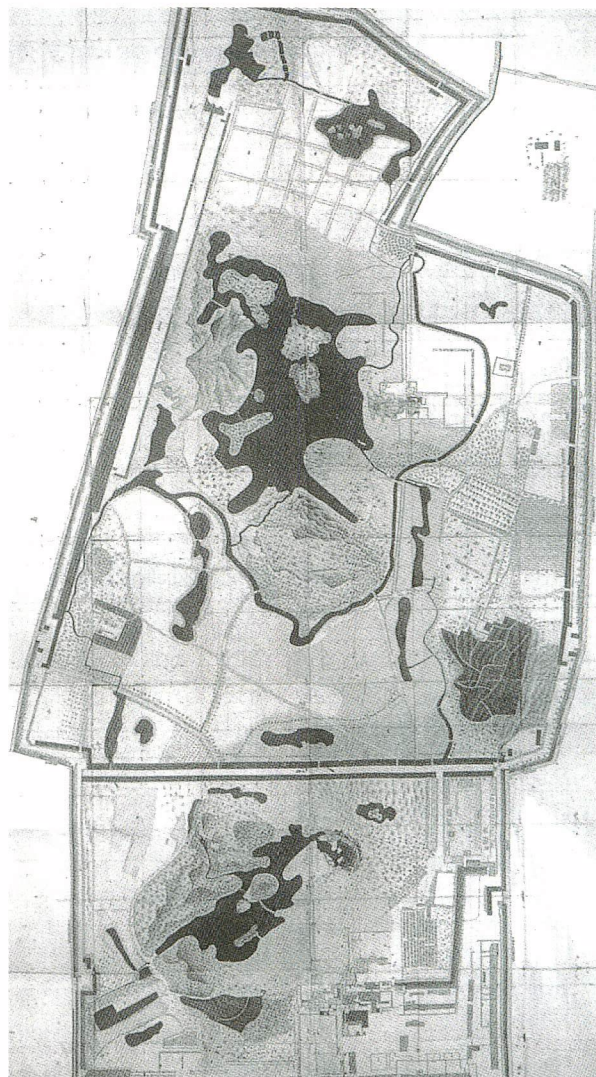


平成12年11月の講演会及び特殊資料展の様子。次頁は展示資料の一部。

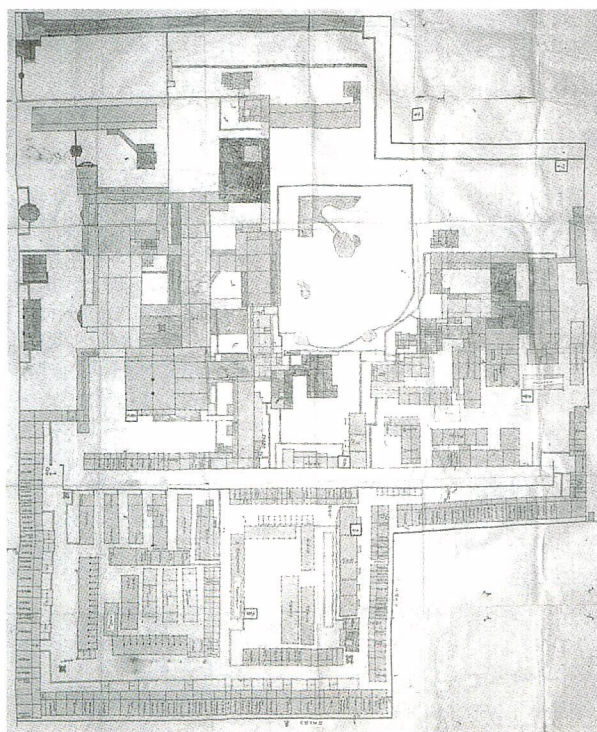




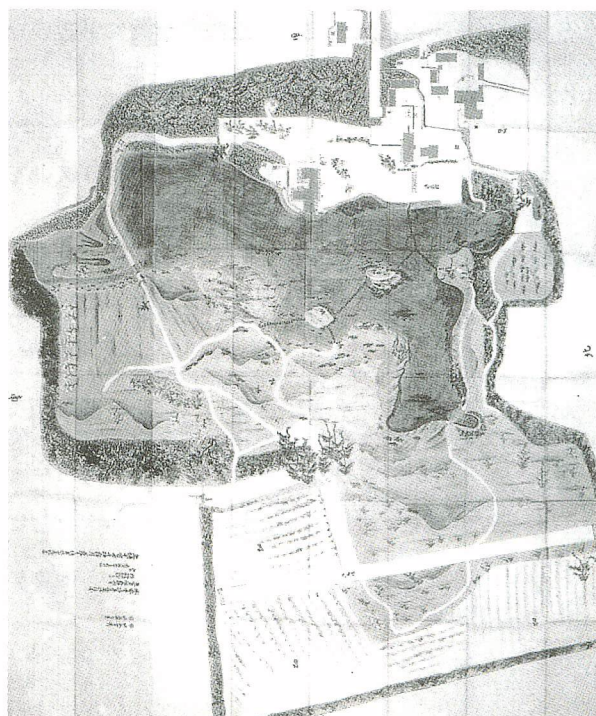
「瀧口御屋敷之図」(106×167cm)  
寛永10年(1633年)の瀧口上屋敷



「戸越御屋敷惣御差図」(553×353cm)  
寛文年間に完成した別荘、戸越屋敷



「芝御屋敷絵図」(209×253cm)  
芝の増上寺近くの下屋敷



「水前寺元御茶屋絵図」(265×225cm)  
国許屋敷としての水前寺成趣園

## 本学教官寄贈図書 (平成12年7月～12月)

★ASPECT熊大コーナーに配架しています★

### ◆三澤純助教授 (文学部)

それぞれの明治維新：変革期の生き方 / 佐々木克編. -- 東京：吉川弘文館，2000.8.

中央館・教官著書コーナー：210.61/So,55

社会と秩序 / 藪田貫編. -- 東京：青木書店，2000.3. -- (民衆運動史：近世から近代へ / 新井勝紘 [ほか] 編集委員；3).

中央館・教官著書コーナー：210.5/Mi,47/(3)

### ◆熊本大学法学会 (法学部)

地方における法科大学院の必要性：連携と協力への模索. -- 熊本：熊本大学法学会，2000.6.

中央館・教官著書コーナー：377/C,43

### ◆前橋敏之元理学部教授

0と1の世紀：数値主義の時代 / 前橋敏之著. -- 東京：近代文芸社，2000.12. -- (近代文芸社新書).

中央館・教官著書コーナー：007.04/Ma,26

## 最近の図書館の動き (平成12年7月～12月)

### ●新しいサービスの開始 (8月)

- ・学生希望図書申し込み  
中央館に備え付けてほしい図書を、ホームページから送信フォームを利用して申し込むことができます。
- ・OPAC所蔵検索の“資料配置エリア案内”  
中央館に所蔵されている図書は、どのエリアに配架されているのかを表示しています。
- ・iモードとJスカイでは開館予定を表示  
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/i/index.html>  
(iモード)  
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/j/index.html>  
(Jスカイ)

### ●目録システム地域講習会 (図書コース) ・ILLシステム地域講習会開催

国立情報学研究所との共催で、WebUIPを利用する初の地域講習会を開催しました。会場に総合情報処理センター実習室を使用したため、授業に影響のない日程で、図書コースは8/28～8/30、ILLは8/31～9/1の夏季休暇期間中に実施しました。

今回は、ホームページで講習会案内を行い、受講者用 (図書コース18名、ILL11名) ・講師用 (国立情報学研究所担当部署を含む) のメーリングリストを用い連絡や意見の交換を行いました。

### ●一般市民への利用アンケート

貸出のために利用登録をしている一般市民の中から、100名を無作為に選び、図書館サービスについての質問票を10月に送付しました。その結果、「利用した印象」は“大変よい”“やや良い”が半数を超え、「満足度」も“公共図書館にはない専門書が多く満足である”などの回答を得ました。4月から実施している時間外開館延長については、“仕事で遅くなっても利用することができる”と大変好評でした。一方、資料の充実や設備の問題、学生の態度などについては厳しい指摘もありました。

学外からの貴重な意見を参考にしながら、図書館サービスの向上に努めたいと思います。

### ●平成12年度特殊資料展・公開講演会

附属図書館では、11月3日 (金) から5日 (日) の3日間、《熊粹祭》にあわせて特殊資料展を開催しました。今年で17回目を迎えた今回の資料展では、「永青文庫による細川家 (藩) の大名屋敷」をテーマに図書館に寄託されている永青文庫 (細川家文書) から細川家の江戸上屋敷、下屋敷、ほかの絵図や文書など14点を展示しました。資料展の入場者は、昨年を上回る420名 (一般市民253名含む) に上りました。永青文庫には建築学からも大変興味深い資料が揃っており、今回の資料展を通して、藩政資料としての学術的価値の高さがあらためて明らかにされました。また、初日の11月3日には、工学部北野隆教授による「細川家 (藩) の江戸屋敷」と題した公開講演会を図書館大会議室で開催し、今回展示された絵図について、スライドを用いてわかりやすく解説され、一般市民を含む100名近くの聴衆が熱心に聞き入っていました。

### ●図書館ガイダンス-中級編- (中央館)

新入生対象の“春のガイダンス”に続く、文献探索について理解を深めるための“図書館ガイダンス-中級編-”を11/27～12/15に実施しました。中級編では、“新聞記事を探す”“雑誌論文を探す”“所蔵を調べる”という3つのコースを用意したので、参加者は自分に必要なコースを選び、受講することが可能でした。各コースとも70分の予定で、パソコン実習を含む説明を軸にして、必要な資料の配置を理解してもらうために館内ツアーを実施しました。ガイダンスの申し込みや連絡は、直接来館する以外に、ホームページやメールでも受け付けており、さらに5人以上のグループで受講する場合は、開催日程とは別に、随時開催するという特典をつけました。

実施結果報告については、ホームページ上で公開しています。



## 委員会報告 (平成12年7月～12月)

### 附属図書館運営委員会

■平成12年度第2回(7月5日)(書面回議)

[協議事項]

- (1)学生用図書学部選書費配分

■平成12年度第3回(9月7日)

[協議事項]

- (1)学生用図書購入費等の配分  
 (2)電子的サービス検討専門委員会報告  
 (3)外国雑誌購入費の予算措置  
 (4)その他：平成12年度教育改善推進費(学長裁量経費)の要求、学生の未返却図書の督促

■平成12年度第4回(11月13日)

[協議事項]

- (1)附属図書館長選考日程(案)  
 (2)熊本大学附属図書館長選考規則の改正  
 (3)平成14年度概算要求  
 (4)中央館増改築検討専門委員会の設置  
 (5)電子的サービス検討専門委員会報告

### 電子的サービス検討専門委員会

■平成12年度第1回(7月18日)

[協議事項]

- (1)目的・方法の確認  
 (2)これまでの経過  
 (3)電子ジャーナルに係る動向

- (4)2001年外国雑誌購読調査の集計結果

- (5)今後の進め方

■平成12年度第2回(9月5日)(書面回議)

- (1)図書館運営委員会への中間報告

■平成12年度第3回(11月8日)

- (1)進捗状況及び今後の予定  
 (2)アンケート結果  
 (3)報告書(案)

### 医学部分館図書委員会

■平成12年度第2回(11月8日)(書面回議)

[協議事項]

- (1)図書講義棟建築WG後の医学部分館施設案について(1回目)

■平成12年度第3回(11月30日)

[協議事項]

- (1)図書講義棟建築WG後の医学部分館施設案について(2回目)

### 薬学部分館図書委員会

■平成12年度第2回(9月20日)

[協議事項]

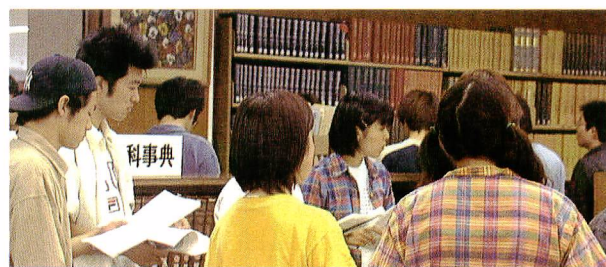
- (1)平成12年度学生用図書の推薦  
 (2)その他：購読新聞の見直し、コピー機の移動

## 日誌 (平成12年7月～12月)

7.6	平成12年度 熊本県大学図書館協議会実務者研修会(熊本県立大学)	11.8	電子的サービス検討専門委員会
7.10-7.28	平成12年度大学図書館職員長期研修(つくば市、東京)	11.8	医学部分館図書委員会(図書講義棟建築WG後の医学部分館施設案について 第1回)
7.18	電子的サービス検討専門委員会	11.13	附属図書館運営委員会
8.23-25	平成12年度図書館等職員著作権実務講習会(九州大学)	11.16-17	九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議(琉球大学)
8.24	学生証による来館利用等に関する検討会(熊本県立大学)	11.20-12.15	平成12年度図書館ガイダンス・中級編
8.28-30	目録システム地域講習会(図書コース)	11.28	電子ジャーナルEBSCO Host説明会
8.31-9.1	ILLシステム地域講習会	11.30	医学部分館図書委員会(図書講義棟建築WG後の医学部分館施設案について 第2回)
9.7	附属図書館運営委員会	11.30	平成12年度九州地区国立大学附属図書館図書館電子化推進連絡会議(九州大学)
9.20	平成12年度第2回薬学部分館図書委員会	12.1	平成12年度九州地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議(九州大学)
11.3-5	平成12年度「特殊資料展」	12.27	中央館増改築検討専門委員会
11.6-9	平成12年度大学図書館職員講習会(京都大学)	12.26-1.4	年末年始休館：中央館
11.6	キャンパスクリーンデー	12.29-1.4	年末年始休館：医学部分館・薬学部分館
11.7-10	九州地区国立大学図書館協議会実務者連絡会議(北九州市)		

# 総合科目 「情報メディアとネットワークの活用」 開講される

12年度前期の教養教育総合科目に、学生自らが学問を学び、新たな知的創造を可能とするための情報リテラシーを高めることを目的とした授業「情報メディアとネットワークの活用」が開講されました。



この授業は図書館と総合情報処理センターとの協力によるもので、図書館長をオーガナイザーに文学部、教育学部、理学部、総合情報処理センターの教官、学外非常勤講師の合計6名が講義を担当し、演習には図書館司書と4人のTAが実習の支援に当たりました。

図書館では、この授業の意義を次のように捉え全館をあげて協力体制をとりました。

- ・ 学生の自己学習と情報活用の場としての「図書館利用」の促進
- ・ 熊本大学の情報教育実施における図書館（機能）の役割強化
- ・ 図書館員のリテラシー向上と教育支援（参画）意識の啓蒙

授業の実施にあたっては、教官との協力のもとで電子的な手段を活用した「双方向、参加型」の運用をめざして授業用のホームページを立ち上げました。テキスト、レポート課題などを提供するとともに、ホームページ上で質問を受け付け、レポートは学内へ公開されました。また、演習内容等については、TAと図書館スタッフの意見が重視され、学生と図書館利用者からの視点による課題設定などが行われました。

なお、この授業についての詳細は、次号で報告する予定となっています。

編集後記：10月中旬、市民ランナーの夢である四国高知の中村市へ、自然を満喫し土佐湾に注ぐ大清流四万十川100kmウルトラマラソン初挑戦のため、ベテラン上司と共に完走を願って参加致しました。早朝5：30中村市長の号砲と同時にまだ薄暗い中を1200名がお互いゴールすることを願ってスタートしました。スタートから約600mの山頂に向かって登りこの地点が21km、ここでかなりランナー脱落者あり、30km過ぎてようやく待望の大清流、四万十川を横目で見ながら並走する、すばらしい清流に紅葉したカエデ、モミジが映し出され見事な風景に疲れも吹き飛んでしまいます。80km地点、気力を失って坐って居るランナー、トボトボ歩いているランナー、後20km余りですが疲れも超ピーク、周りは薄暗くなり、ボランティアの車の明かりを辿りながら走り続ける。午後7時過ぎ遠くにみえるゴールの明かりをめざし、感覚が無くなった足を引き摺り、大勢の「お帰りなさい」の市民の声授受け、ようやく念願であった100kmを大きく手を広げ、「帰ったゾー」のポーズを造り無事ゴールテープを切り

ました。13時間35分と、途方もない時間ですが、完走したことで精神力には自分でも感心し誉めてやりたい気持ちです。何事も目標を持って諦めず挑戦することが自分自身少しでも仕事のささえになることでしょう。

熊本大学附属図書館報「東光原」(とうこうげん)\*  
25巻4号/26巻1号 平成13年(2001年)1月発行

発行所 熊本大学附属図書館  
〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1  
TEL:096(342)2273 FAX096(342)2210  
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/tokogen/>  
編集 浜崎修一、梅尾勝征、甲斐重武、  
永村典子、川内野祐子、浜崎千雅

\*現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。